

土浦普及センターだより

平成26年9月26日 No.37
茨城県県南農林事務所経営・普及部門
(土浦地域農業改良普及センター)
土浦農業改良普及事業推進協議会
土浦合同庁舎第二分庁舎3階
土浦市真鍋5-17-26
電話 029-822-8517
FAX 029-822-7370
URL:<http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kennan/tsuchiura/index.html>

土浦おいしい梨研究会



写真右上 現地研修

写真左上 鳥取県二十世紀記念館

写真右下 鳥取大学農学部(田村学部長と)

鳥取県内のナシ栽培の歴史及び生産の現状、後継者育成、ナシ栽培技術全般について話しを伺い、今後の経営に多くのヒントをいただきました。



土浦おいしい梨研究会(会員…五名、会長…萩原隆史氏)は、ナシの若木育成技術の習得と向上を目的に、平成二年に設立されました。土浦市内の若手ナシ生産者が集まり、先進地研修会や現地検討会、食味会等を行っています。

今年度は、鳥取県で先進技術研修を行いました。鳥取大学、鳥取県園芸試験場、現地ナシ園等を訪問し、ナシ栽培技術や産地の状況について見識を深めました。

特に印象に残ったのは、産学官の連携と、植物生理に則った栽培管理技術の高さです。鳥取県は、言うまでもなく二十世紀梨の産地ですが、なぜ鳥取県で産地が形成されたのかを垣間見ることができました。

また、当研究会では、ナシの改植を見込んで若木育成技術の検討を続けているところですが、なかなか改植に踏み切れないのが現状です。研修では、このような状況に対し「イメージを持つことが重要」という助言をいただき、樹・園・将来の経営について、改めて考え直すきっかけになりました。

研究会では、今後、活動の輪を広げていきたいと考えています。興味のある方は、是非、普及センターまで御連絡ください。



**イネ縞葉枯病が
増えています！**

県西地域を中心に、昨年からイネ縞葉枯病の発生が多くなっており、一部では収量に影響が出ています。県南地域でも、昨年に比べるとかなり発生が増えていますので、まだ発生が少ないうちに防除対策を行いましょ。

イネ縞葉枯病は、イネ縞葉枯ウイルスを持ったヒメトビウンカ(写真1)がイネを吸汁することにより感染するウイルス病です。

イネがイネ縞葉枯ウイルスに感染すると、本田初期では、新葉が細く巻き「こより状」に垂れ下がって枯れ上がり、(ゆうれい症状、写真2)。後期感染では、葉に淡黄色の縦縞ができ、穂が出すくんだり(写真3)、出穂しても不稔になることが多く減収します。

今後の防除対策としては、①発病株から発生するひこばえをヒメトビウンカが吸汁すると、ウイルスを獲得してしまつので、収穫後は早めに水田を耕起し、ひこばえの発生を防止します。②冬から春にかけてのヒメトビウンカの越冬場所である畦畔の雑草管理を行



▲写真1 ▲写真2 ▲写真3

い、幼虫の越冬密度を下げます。③来年の育苗時には、飛来するヒメトビウンカ成虫を対象に、薬効が長期持続する育苗箱薬剤で防除します。



**「漏生(ろうせい)イネ」
の発生を防ぎましょ！**

今年度は、田植えした株以外の畝間や株間に生えた昨年の籾由来の「漏生(ろうせい)イネ」が多く見られました。多く発生した理由として、収穫時のこぼれ籾に加え、稲刈り後の気温が高く、稲の切り株から再生したひこばえが稔り、平年よりも多くの籾が田んぼに残ってしまったためと考えられます。温暖化の影響で、今後も稲刈り後の気温が高いことが予想されますので、ひこばえの発生を防ぐとともに、こぼれ籾を土中に鋤き込み発芽能力を失わせるように収穫後速やかに耕起しましょ。特に、収穫が早い早生品種では、ひこばえの稔実が多く発生するので、稲刈り後の耕起作業が重要となります。

漏生イネの混入は、作付けする品種が前年と異なる場合は、「異品種混入」となります。また、せつかく種子更新をしても自家種子が混入してしまう事になります。さらに、ひこばえ由来の籾は全く防除を受けていないため、種子伝染性病害に犯される危険があります。このように、漏生イネは高品質・安定生産の妨げとなるため、発生の防止に努めましょ。



**レンコン田の防鳥ネット
の管理についで**

防鳥ネットの効果をうまく発揮するためには、適切な管理が大切です。

【鳥による被害の状況】

日本一のレンコン産地である土浦市・かすみがうら市でのカモ類による被害額は、二億四千万円(平成二四年)に達しています(土浦市・かすみがうら市農作物鳥獣被害防止計画より)。具体的には、バン類やカルガモによる定植後の新芽や茎葉の被害、カモ類による肥大茎の食害が発生していると言われています(類ぐび)を伸ばしたり、(中略)逆立ちして泥の中のレンコン(栽培中や昨年の残滓)を掘り起す。日本野鳥の会茨城県会報 ひばり No.307(5)より引用。

【防鳥ネット管理のポイント】

レンコン田への鳥の侵入を防ぎ、被害を防ぐためには、「サイドネット(側面のネット)を下までしっかりと閉じることが最も重要です。多くの水鳥は水田に飛来し着水した後、しばしば他の田まで歩いて移動するため、サイドネットが地面や水面までしっかりと閉じられていないと、容易に侵入してしまいます。サイドネットはできるだけ下まで閉じましょ。

【環境に優しい農業へ】

防鳥ネットを適切に管理し、野鳥がレンコン田に侵入しにくくすることで、被害を防ぐだけでなく、野鳥が

まちからむらから

土浦市

初めての「田んぼアート」

土浦市では、「土浦市新治地区都市と農村の交流事業推進協議会」が中心となり、初めての「田んぼアート」に取り組んでいます。

「田んぼアート」は色の異なる稲を使って図柄を描くもので、六月八日(日)に、土浦市小野地区にある「小町の館」前の一三aの水田で田植え体験会が開催され、親子連れなどの参加者で賑わいました。

植えられた稲は順調に育ち、小野小町の姿が見事に浮かび上がりました(写真)。こまちは、ラウライダイスター(写真提供)。一〇月には稲刈り体験会が実施される予定です。



かすみがうら市

農業三士の会が現地研修会を開催

六月二十七日、農業三士の会が現地研修会を開催しました。同会のかすみがうら市の農業経営士、女性農業士、青年農業士及びOBから構成され、本研修会のほか、地域の祭事での直売会や視察研修を実施しています。

二年目となる今回は、千代田地区の二カ所のナシ園とキュウリのハウスを訪れ、市内を代表する各品目の経営について意見交換を行いました。ナシ園では栽培管理や病害虫防除についての質

ネットに絡まる事故を防ぐこともできません。特に、収穫後のレンコン田には、残渣を食べに多くの野鳥が侵入するため、収穫を終えた後もネットをしっかりと閉じる必要があります。また、畦畔での作業時にまくり上げたサイドネットを、緩くたるんだ状態にしていると、野鳥が絡まりやすくなります。まくり上げる場合は、たるまないようにしっかりと束ね、万が一、防鳥ネットに野鳥が絡まったら、速やかに放鳥してくだ



▲写真 下までしっかり閉じる

宮農
トピックス
近年見られる
ナシのモザイク症状

近年、ナシの葉にモザイク状の障害が見られます。症状が著しい場合、新梢先端が落葉し、翌年の花芽形成にも影響を及ぼすと考えられ、注意が必要です。

以下、症状及び現在考えられている原因と対策を紹介します。

●**症状**

葉にモザイク状の退緑症状(写真1)が現れ、新梢に亀裂が入る(写真2)のが特徴です。上位葉ほど症状が進みます(写真3)、ひどい場合は落葉します(写真4)。品種は「豊水」や「あきづき」に多いようです。

昨年は、一部の園で新梢の上位葉に

見られるだけでしたが、今年は、より多くの園で果そう葉から症状が見られ、上位葉ほど症状が進みました。



▲写真1 葉の退緑症状



▲写真2 新梢に亀裂が入る



▲写真3 上位葉ほど症状が進む



▲写真4 症状がひどいと落葉

●**原因**

原因は特定されていませんが、農研機構果樹研究所のこれまでの調査では、ニセナシサビダニが一因と考えられています。

●**対策に向けて**

原因が特定されていないため、対策も確立されていないのが現状です。

原因の一つと考えられているニセナシサビダニの防除適期は、密度が低い五月上旬と、増えてくる六月上旬頃です。今年、四月及び五月にニセナシサビダニに登録のある殺虫剤を散布したところ、被害が軽く、新梢先端まで正常な葉が着生したという事例がありました。今後、新たな知見が得られたら、改めてお知らせいたします。

宮農
トピックス
県オリジナル
品種のご紹介

茨城県のユギクは、県内の切り花品目では栽培面積が第一位(全国で第二位)を占め、重要な花き品目です。県では七月、八月、九月の物日前後に出荷できる県オリジナル「常陸シリーズ」を育成しており、今秋から、新たに次の三品種が追加発売されます。



サマーシルキー
(8月旧盆出荷向け)
白色品種で、花数が多く、生育と開花揃いが良好です。



サマールージュ
(8月旧盆出荷向け)
鮮明な赤紫色です。花数が多く、切花長の長い、スリムな草姿が特長です。



サニーバナラ
(7月東京盆出荷向け)
純白で、市場性の高い緑芯の花です。頂点咲きで花数が多く、草丈も長くボリュームがあります。

疑や、選果機の稼働状況を見学し、昨年収穫し貯蔵したナシを試食しました。キュウリのハウスでは抑制の作型に備えて、土壌をビニールで被覆し、太陽熱消毒を行っている様子を見学しました。



かすみがうら市農業三士の会は、これからも農業者のリーダーとして、産地の維持・発展に取り組めます。

石岡市
アップカッターロータリーを利用した畝立て同時は種による麦・大豆の安定生産

石岡市八郷地区は、県内最大の採種の産地です。転換畑を利用した大麦、小麦、大豆の栽培では、湿害による収量低下が問題となっています。

そこで、平成二四年度より農業研究所と連携して、アップカッターロータリーを利用した畝立て同時は種による実証を行いました。二年間の実証の結果、排水不良の水田転換畑においても、小麦では安定して四〇五俵／一〇aの収量が得られています。

石岡市では、平成二五年度麦・大豆緊急対策事業を活用し、市内に六台のアップカッターロータリーが導入されました。昨年に引き続き今年度も、アップカッターロータリーを利用して、大粒大豆「里のほほえみ」の実証栽培試験を行っています。

ぜひどうぞよろしく
お願いいたします

今年度、新たに女性農業士として、かすみがうら市の市村明代氏(露地野菜)が茨城県知事の認定を受けました。

かすみがうら市 市村 明代氏



レノン専作経営で、土質に合わせて品種選びで、良品質なレノン生産に取り組んでおられます。かすみがうら市の女性消防団等でも積極的に地域に貢献しており、今後の活躍が期待されます。

ありがとうございました

今年度、以下の皆さんが退任されました。

女性農業士

- | | |
|---------|--------|
| 土浦市 | 高橋 洋子氏 |
| 石岡市 | 柘植由美子氏 |
| 石岡市 | 小松 光子氏 |
| かすみがうら市 | 中山 恵子氏 |
| かすみがうら市 | 飯村 恵子氏 |
| 青年農業士 | |
| 石岡市 | 久保田和博氏 |
| かすみがうら市 | 今井 崇博氏 |

後継者組織紹介(養豚青年部)

県南地区養豚協会青年部は、平成二四年八月に、県南地域の養豚農家の後継者が、情報交換や研修会の開催、会員同士の親睦と地域農業の振興を図ることを目的として発足しました。現在は県南地域外の後継者も参加し、一四名で活動しています。

活動は、年に二回講師を招いて、豚の飼養管理や生産技術等についての勉強会を開いています。

また、孤立しがちな養豚農家の横のつながりを強めるため、情報交換会を開催し、会員同士の親睦を深めています。「これまで、同世代の養豚関係の友人が作りづらかったけど、仲間ができてよかった。」という声が会員の間から聞かれます。

昨年度は、農林振興公社の事業を活用して、県産豚肉のPRを行います。



平成27年度 茨城県立農業大学校学生募集

農業の実践力を養います。大学への編入資格も得られます。

区分	学科名	募集人員	主な対象	修業年限	専攻コース
学 科	農学科	40名	高校等を卒業した者又は平成27年3月に卒業若しくは修了見込みの者	2年	普通作・露地野菜・果樹
	畜産学科	10		2年	
	園芸学科	30		2年	施設野菜・花き
研 究 科		10	農業大学校卒又は短大等卒以上若しくは卒業見込みの者	2年	作物・園芸・畜産

募集人員・願書受付・入学試験

学 科	◆推薦入試	
	・募集人員	各学科定員の60%程度
・願書受付期間	平成26年 9月30日(火)～平成26年10月15日(水)	
・試験日	平成26年10月24日(金)	
・選抜方法	小論文・口述試験(個別面接)・調査書等	
学 科	◆一般入試(学科)	
	・募集人員	各学科定員の40%程度(前期・後期の割合は概ね3:1とします)
・願書受付期間	前期 平成26年11月12日(水)～平成26年12月 3日(水) 後期 平成27年 2月 6日(金)～平成27年 2月25日(水)	
・試験日	前期 平成26年12月12日(金) 後期 平成27年 3月 6日(金)	
・選抜方法	筆記試験・口述試験(個別面接)・調査書等	
研 究 科	・願書受付期間	平成26年11月12日(水)～平成26年12月3日(水)
	・試験日	平成26年12月12日(金)
	・選抜方法	筆記試験・口述試験(個別面接)・調査書等

◎ 詳しくは入試事務局にお問い合わせください。
 ■ 問い合わせ先 〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡4070-186
 入試事務局 TEL029-292-0010
 ■ 農大ホームページ <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nodai/>

ました。つくば国際大学と連携し、会員が養豚の出前講座を行ったり、会員三名の育てた豚肉で官能検査を行い、将来栄養士等を目指す学生に向けて、豚肉の知識を深めてもらうことができました。

また、一般向けには、つくば国際大学文化祭や花フェスタに出店し、豚汁販売を通して県産豚肉をPRしました。

今後も、県南地域に限らず会員の参加を募り、活発な活動を続けていく計画です。

いばらき営農塾の御案内

いばらき営農塾は、講義や実習とおして基礎的な農業技術を学ぶことができる、県立農業大学校で開講している研修です。

毎年、四コースを開講しています。

県立農業大学校のホームページから申込用紙をプリントできます。希望される方は普及センターまで御連絡ください。